

医療現場向けインカムのご提案



2007/5/29
株式会社スタンダード
三電計装株式会社





- はじめに
現在無線インカム市場は従来の安全確保や連絡目的以外に医療最先端にまで利用シーンが拡大しています。

医療機器などに影響を与えない微弱な電波の通信機として、看護担当者への連絡に使われていた特定小電力無線機が手術室でも利用されるようになった。オペ中は患者以外を触れることのできない執刀医に自動送受のインカムを装備して支援部隊と連絡網構築が目的である。—以上3月5日付電波新聞より一部抜粋—





・ 導入のメリット

- ①執刀医の指示を全員で確認でき必要時に会話ができる。
- ②その会話を患者に聞かれずにすることができる。
(循環器系、特にカテーテル手術)
- ③ハンズフリーで手術することができる。
- ④迅速に手術することができる。(カテーテルの受渡し等)
- ⑤微弱電波(1mW)なので医療機器に障害を与えることがない。





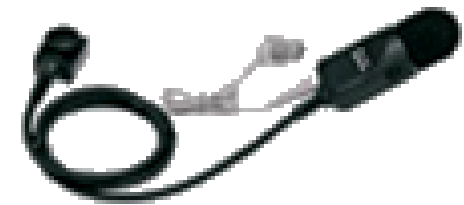
2. 商品構成1

HX824 (同時通話型特定小電力無線機)

CMP816 (タイピンマイク)



執刀医向け
(ハットセットタイプ)



助手・看護師向け
(タイピンタイプ)



3. 商品構成2

MICS (複数同時通話無線機、作業用連絡システム)



執刀医向け
(ヘッドセットタイプ)



助手・看護師向け
(タイピンタイプ)

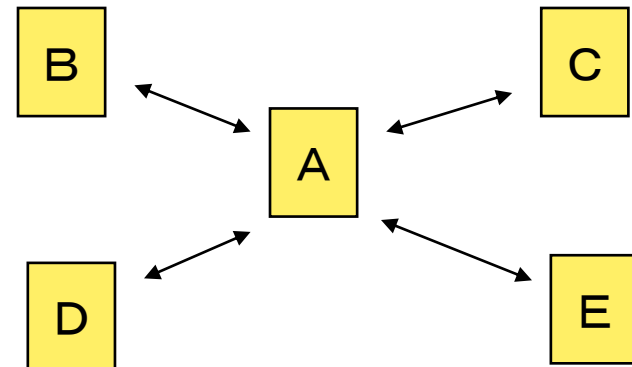




4. 使用方法(例1)

HX824(同時通話型特定小電力無線機)

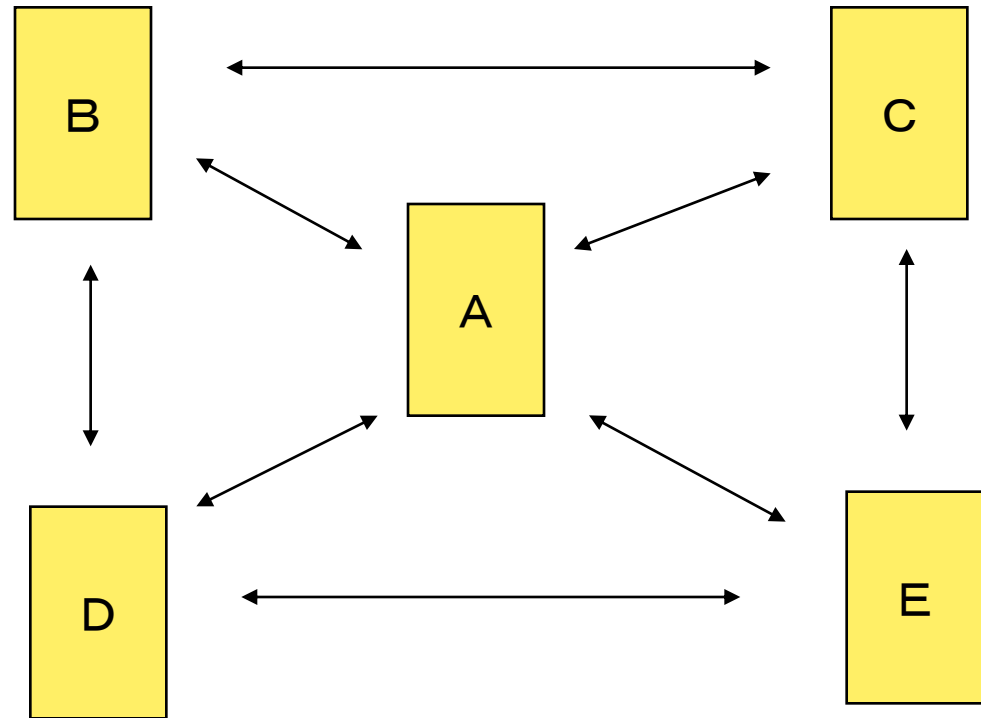
- ①手術時に執刀医がカテーテルのサイズをハンズフリーインカムで連絡。
- ②カテーテルを運ぶ係りの者は執刀医の連絡を受け即、指定サイズのカテーテルを渡すことができます。回りの助手はモニターを見ながら内容を確認。
- ③助手からの執刀医への質問の場合、コールボタンを押し執刀医と同時通話で会話することができます(1:1)。その会話を全員が聞くことができます。
- ④その他の助手が執刀医に質問がある場合は、現在の会話が終了した後コールボタンを押し会話を始めます。



5. 使用方法(例2)

MICS(複数同時通話無線機、作業用連絡システム)

- ①ABCDE全員が同時に会話ができます。(8人まで可能)
- ②同時に通話(送信)できるのは最大8人までですが、(受信)子機は何台でも使用可能です。
- ③親機が必要になります。





6. 導入箇所

①〇〇中央病院(倉敷市)

- ・使用目的:カテーテル手術時の連絡・対応
- ・使用モデル:HX824(同時通話型特定小電力無線機)
- ・台数:20set

②〇〇中央病院(津山市)

- ・使用目的:カテーテル手術時の連絡・対応
- ・使用モデル:MICS(複数同時通話無線機、作業用連絡システム)
- ・台数:親機1台:子機5台

③循環器系専門病院(東京)

- ・使用目的:カテーテル手術時の連絡・対応
- ・使用モデル:MICS(複数同時通話無線機、作業用連絡システム)
- ・台数:親機1台:子機5台





スタンダードは
現場に合った様々な通信手段をご提案いたします。

